

グローバル スコープ

先の参議院選挙で「日本人ファースト」を掲げる参政党の大躍進は、欧米先進国で大きな政治課題となっている移民・難民問題の波が日本にもやってきたと感じさせる。日本の場合には、伝統的に移民・難民を積極的に受け入れてはこなかった。

一方、農業、建設現場、サービス業などでの労働力不足は外国人労働者雇用の必要性を押し上げてきた。近年、急激に増えた外国人観光客が引き起こす「オーバーツーリズム」や「労働者」として受け入れた外国人が起す犯罪などが脚光を浴び、参政党の主張とも相ま

「外国人問題」英国に学ぶ



参議院選挙で「日本人ファースト」を掲げ参政党は大躍進した（ブルームバーグ）

て「外国人問題」が重要な政治課題となりつつある。国民の日常生活に入り込んできているのは、外国人、とり

「単一族」的意識などから、日本人が何かわけ中国人の大学のみならず、初等中等教育課程への入学や不動産投資に係る諸問題だ。

日本が島国であり、長い鎖国時代を経験した歴史の経緯、さらには少数民族が限られた

不公平感払拭 排他的感情抑える

のきつかけで排他的に走る余地はある。先日の法務相の記者会見では「外国人の受け入れのあり方」について本格的な検討をするとのことである。

日本が「外国人問題」に対処していくにあたっては、同じ島国であり移民問題に長く取り組んできた英国の経験が参考になる。英国はインド・パキスタンなど旧植民地からの移民を大量に受け入れてきた経緯があり、それら移民の英国社会への定着に成功してきた。

しかし欧州連合（EU）の中で旧東欧からの移民が多数流入するに伴い、英国は国民投票を経て、EUから離脱（ブレグジット）に走った。ブレグジット後も2024年に至り、英国人少女3人が非白人の少年に刺殺されたことを契機に大暴動が起った。厳格な移民政策を掲げ、5月の地方選で大躍進した右派ポピュリスト政党「リフォーラムUK」

は、今や英国で最も支持率が高い政党に台頭してきた。英国の伝統的な二大政党制が移民問題を契機に右派ポピュリスト政党に飲み込まれる危機である。

このような反移民感情の高まりの背景にはブレグジット後の英国の経済状況の悪化、特にインフレや富裕層と貧困層の二極化、都市と地方の格差拡大など国民の不満があり、リフォーラムUKのフアラ

「不公平感」が外国人排斥的な政党の人気を高めている点では共通点があるのだろう。そしてインフレの下での「国民の不公平感」を払拭していく事が大事な方策であるとの点についても共通項があるのかもしれない。



日本総合研究所
国際戦略研究所
特別顧問

田中均